

# JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター  
The Japan Center for Michigan Universities

No.43  
2007 夏

## レーガン所長からのご挨拶

Paul B Reagan  
Resident Director of The Japan Center for  
Michigan Universities

I am delighted to introduce myself as the new Resident Director for the Japan Center for Michigan Universities. Since my arrival in January 2007 much has taken place in terms of academic and student life. JCMU celebrated the successful completion of the Academic Year with a closing ceremony on 14 April in which students enrolled in both our Intensive Japanese Language and English Programs were awarded certificates of successful completion of the program. The ceremony was attended by an array of dignitaries including representatives and colleagues from Shiga Prefecture, Shiga University, The University of Shiga Prefecture, Hikone City, and SIA who joined us in the reception which followed. There were two special performances this year at the closing ceremony; Professor Preston Houser performed a moving piece on the Shakuhachi and five JCMU students, under the direction of Mr. Abe of Tonda Bunraku, performed a piece from classical Japanese puppetry.

Our May program was a great success this year. JCMU sponsored five courses in literature, technology, history, marketing, and art. Graduate Students from the Graduate School of Art, Ann Arbor have been participating in Hikone life and in a number of projects over the past few weeks and will present their work at an exhibit 1 June.

We are now preparing for the arrival of nearly sixty students who have been accepted into the nine-week intensive Japanese language program. We are looking forward to the continued success of our students and the opening of new vistas as they experience the riches of Japanese life, language and culture especially in this year commemorating the 400<sup>th</sup> anniversary of Hikone Castle.



ポール B レーガン  
ミシガン州立大学連合日本センター所長

私はミシガン大学連合日本センター(以下「JCMU」)の新所長です。どうぞよろしく申し上げます。2007年1月に着任してから、学生たちの学校生活に色々なことがありました。

滋賀県、滋賀大学、滋賀県立大学、彦根市、(財)滋賀県国際協会などから来賓を迎えて行われた4月14日の修了式では、ここJCMUで日本語集中プログラムと英語プログラムを見事に履修した46名の学生に修了証書が授与され、修了を祝いました。今年も、修了式の後のレセプションには、プレストン・ハウザー教授のすばらしい尺八演奏と、富田文楽の安部氏の指導のもと、5人のJCMU留学生による文楽の披露という、2つの特別公演がありました。

今年の日本文化・社会短期特別講座(メイプログラム)は大成功でした。JCMUでは、文学、技術、歴史、マーケティング、芸術の5つのコースを開きました。ミシガン大学アナーバー校の芸術専攻の大学院生たちは、この2、3週間、彦根市内で生活をし、

いくつかのプロジェクトに参加しました。6月1日には彼らの作品の展示会があります。

60人近くの学生が9週間の集中日本語コースを取るために到着することになっていて、今はそのための準備をしています。彦根城築城400年目の記念すべきこの年に、留学生たちが日本の豊かな生活、言語、文化を経験して、新たな展望を開いてくれることを楽しみにしています。



修了式で富田人形を披露する学生の様子

# Integrative Cultural Research Project

## 文化研修プロジェクト ~留学生のインターンシップ体験記~

今回は、ミシガン州のカラマズーカレッジの学生のインターンシップ体験レポートをご紹介します。このインターンシップは、学生がそれぞれの興味や関心をもとに自由にテーマを設定し、地域の活動に参加したり、人々と交流したりすることを通して、日本の文化や人々の暮らしに対する理解を深めることを目的とした、統合的なプロジェクトです。

### 「運動クラブのインストラクター体験」 トム・バークマンさん



僕は、子どもたちを対象としたNPO運動クラブのインストラクターの一員として、インターンシップを行いました。最初のうちは、僕が外国人だということもあり、キャッチボールをしようかと話しかけると、何も言わずに逃げ出してしまう子どももいました。でも、一人の子どもとキャッチボールを始めると、一人またひとりと、子どもたちが近づいてくるようになりました。このクラブでは、グループ競技を数多く取り入れています。みんなで一緒に取り組めば、恥ずかしがりやの子どもでも、楽しく積極的に参加できるからです。

また、このインターンシップを通して、子どもたちが思いきり体を動かす機会がだんだん少なくなっているという、日本社会の現状を知りました。今後は、このように子どもたちの体力づくりを目的とした社会的な取り組みが、ますます必要となってくるかもしれません。



### 「小児病棟でのボランティア」 ダニエル・アントナックさん



私は、彦根市民病院の小児病棟で、滋賀県立大学人間看護学部の学生が行っているボランティア活動に参加しました。この学生ボランティアグループは、絵本の読み聞かせをしたり、一緒にゲームをしたりして、入院中の子供たちを楽しませるための様々な活動を行っています。私は以前、アメリカの病院でボランティア活動に参加したことがあります。私が感じた一番大きな違いは、日本の小児病棟にはあまり飾りつけがなく、壁も廊下も他の病棟と同じような色やデザインだという点です。アメリカの病院の場合、小児病棟には子供たちを楽しませるような、様々な工夫があります。例えば、壁などにカラフルな飾りがたくさんあり、医師や看護師も、子ども向けの特別なユニフォームを着ているのです。このボランティア体験を通して、新しい発見が

たくさんあり、子どもたちとも楽しく交流ができたことを、とても嬉しく思います。

### 「柔道教室での指導助手」 デイビット・クツジャさん

僕は、柔道のスポーツ少年団に参加し、子どもたちの指導を体験しました。最初のうち、子どもたちは僕と練習に取り組むことに不安を感じていたようですが、初日の練習を終える頃には、そんな不安もすっかり消えていたようです。低学年の子どもたちは、はるかに体の大きな僕を相手に、力いっぱい技をかけてきました。高学年の子どもたちの相手をしているときは、僕があらゆる技を使っても勝てないこともありました。また、練習の合間には、子どもたちから日本語を教えてもらうこともあり、とてもあたたかく迎え入れてもらいました。僕が彼らから多くのことを学んだように、彼らにとっても僕が何らかの力になれたのなら大変うれしく思います。



## 「彦根城博物館でのインターンシップ」 メーガン・ホールさん

(井伊直弼と幕末についての調査を行ったホールさんのレポートの要約を英文のまま紹介します。)

“Death of a Cherry Blossom: li Naosuke and the end of the Bakuhu”

When li Naosuke, the powerful daimyo of Hikone, assumed the position of Tairo in the Tokugawa shogunate he was faced with a crisis within the government brought about by the coming of Americans Perry and Harris to Japan. li took the matter of signing the treaties into his own hands, and his decisions on the matter were criticized and his actions were seen as ruthless by many in the government, as well as those who were not. Since that time li has been seen as a traitor and a villain. Examining his actions from a modern, removed perspective, li can be seen as a man who did what he thought was best for the shogunate and national security.



## 2007 日本文化・社会 短期特別講座

今年の5月短期特別講座には、芸術、歴史など5つの短期講座に、74名の学生を迎えました。短期間の滞在でしたが、学生たちは名跡を訪ねたり、市民と交流をしたりしながら、日本の文化に触れ、日本での滞在を楽しんだ様子でした。この特別講座のために来日された指導教官の中から、3人の先生にお話を伺いました。

### 犬塚定志教授(ミシガン大学 アナーバー校)



アメリカに来て27年になりますが、現在は、ミシガン大学でインスタレーション(installation)という分野の美術を教えています。インスタレーションとは、場所や空間全体を作品として体験させる芸術のことです。

アメリカでは、近年、池を浄化するために持ち込まれた鯉がミシシッピ川などで繁殖し、その在来種が被害を受けて問題となっています。琵琶湖でも似たような問題がありますね。また、梱包材に混じって持ち込まれたカミキリ虫でカエデの木がやられています。

最近では、セラミックを使って、このような環境問題を空間体験してもらえようようなインスタレーションの制作に取り組んでいるんですよ。



### Dr. Jonathan Thorndike (ベルモント大学)



テネシー州のベルモント大学で日本とイギリスの文学や歴史などを教えています。日本文学というと、川端、三島、大江、谷崎、安部、村上などですね。日本の歴史というと江戸時代のサムライのイメージがありますが、私は幕末から明治維新の頃が一番好きですね。精力的なリーダーが多数輩出して、岩倉使節団に象徴されるように、海外に積極的に出て行きました。このような対外的な積極性は、日本とイギリスとで共通するところがあると思います。日本に来るのはこれで2回目ですが、私は彦根の落ち着いた雰囲気が好きなんですよ。

### Dr. Anthony Ross (ミシガン州立大学)



若いときは長距離選手で毎週100マイルを走っていました。現在は、ミシガン州立大学でサプライ・チェーン・マネジメントと世界の物流を教えています。原料調達から消費者への商品供給まで世界規模で経営することは容易なことではありません。今回の来日の目的は学生に他国の文化に触れさせることと、日本の企業を見学させることです。外国とのビジネスを成功させるためには、その国の文化を知ることが重要で、今日ではアメリカ企業も海外経験を持った人材を求めています。今回の来日は、学生にとって貴重な経験になったと思います。

## 2007年度 行事予定

8/3 金 日本語&日本文化プログラム  
(夏季集中講座) 修了式

9/7 金 日本語&日本文化プログラム  
(秋学期) 始業式

9/18 火 秋季英語プログラム開講

秋 / (時期未定) 公開講座

詳細については、後日ホームページと  
パンフレットにてご案内します。

## Snapshots



JCMUの卒業生たち。  
現在はALTや学生として日本で活躍中です。



英語集中コースの様子。  
特別授業として、英語で美術を学びました。

## 「笑顔でこんにちは！」

春、彦根は桜の中になりました。

今年は、国宝彦根城築城400年祭が行われており、全国からたくさんの方々来られています。

町のあちこちで、キャラクターの「ひこにゃん」や関連グッズも目にする事ができます。

「旅」は、見知らぬ土地での新たな出会いを、そして知っている土地の思わぬ再発見を与えてくれます。

人と出会い、町の今に会い、歴史と出会う。

その出会いは、たった一度きりの出会いかもしれません。

そう、多分一度きりの出会いになることの方が多いでしょう。

だからこそ、出会いを大切に、

できれば、笑顔と、「こんにちは」の一言が交わせたらいいなと思います。(く)

サワディー クラップ ハロウ  
สวัสดี (タイ語) Hello (英語)

アッサラーム アライクム オーラ アンニョンハセヨ  
السلام عليكم (アラビア語) ¡Hola! (スペイン語) 안녕하세요 (韓国語)

ニーハオ ボンジュール スドラーストヴィチェ  
你好 (中国語) Bonjour! (フランス語) Здравствуйте (ロシア語)

## 《秋季英語プログラムご案内》

開講期間 2007年9月18日(火)~12月7日(金)

場所: ミシガン州立大学連合日本センター  
(彦根市松原町〔彦根プリンスホテル南隣〕)

### 英語集中コース

月~金 10:00~12:00 13:10~15:10

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図る  
コースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

\*アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして  
入寮できます。(人数に制限があります。)

### スキル・テーマ別コース

週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ア  
メリカ・オン・ビデオ」、「マルチスキル」等の実力アップを図る  
ためのコースがあります。

### 夜間コース

月・木 週2回 19:00~20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

申込締切 2007年9月5日(水)

### 大津コースのご案内

開講期間:2007年9月19日(水)~12月5日(水)

大津マルチスキル 毎週水曜日 14:00~16:00

大津夜間コース 毎週水曜日 19:00~20:30

場所:ピアザ淡海(大津市におの浜一丁目〔びわ湖ホール東隣〕)

申込締切:2007年9月11日(火)

## 長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリ  
カ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日し  
ている留学生のホストファミリーを随時募集して  
います。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をも  
っており、日本の家庭で生活しながら、皆様とふれあ  
う機会を求めています。ひとりでも多くの留学生  
がホームステイの体験ができるようご協力いただ  
ければ幸いです。

当センターまでの通学所要時間が、1時間程度の  
範囲のご家庭であること、などの条件がございます。  
詳しくは、下記までお問い合わせください。

## ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435 86

TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356

URL <http://www.jcmu.net>

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所